

釧路市教育委員会 令和4年第10回5月定例会会議録

1 日時：令和4年5月27日（金）13時30分から14時50分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、種村俊仁委員、松尾千穂委員、小出美貴子委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、大山教育指導参事、早坂学校教育部長次長、北澤北陽高等学校事務長、池田総務課長、富田総括指導主事、外崎青少年育成センター所長、澤口生涯学習部次長、島スポーツ課長、松本博物館長、鈴木動物園長、畠山指導主事

4 議事録署名人 種村委員、小出委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 一般社団法人釧路青年会議所との連携協定に基づくキャリアシンポジウムの開催について
- (2) VR溶接機を活用した「ものづくり出前授業」の実施について
- (3) 令和4年度「少年の主張」釧路市大会の開催について
- (4) 釧路市授業マイスターの活用について
- (5) ネーミングライツの募集結果について
- (6) QRコードの活用による市有施設入館記録について
- (7) 「夕日ラウンジ」の開設について
- (8) 鳥インフルエンザ発生に係る丹頂鶴自然公園の対応の経過等について
- (9) 学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

- (1) 一般社団法人釧路青年会議所との連携協定に基づくキャリアシンポジウムの開催について

(早坂学校教育部長)

シンポジウムはキャリア教育推進の取組みとして、釧路青年会議所と市教委育委員会の連携協定に基づく、昨年度に引き続き各学校と教育研究センターとのオンライン形式により行う。開催日は6月13日(月)、対象は中学1年生、前半に島本JC理事長と岡部教育長の二人のパネラーより、「学ぶこと、働くこと、そして生きること」をテーマに、コーディネーターを介してトークセッションや対話を行う。後半は前半のトークセッション等を振り返り、クラスごとで働く目的や意味、自分の社会的役割、生きがいなどについて話し合う。シンポジウムを通じて、子供たちのふるさと釧路への郷土愛を育み、将来釧路で働きたいという社会人が現れることを期待している。

シンポジウム終了後の生徒の意見集約について、昨年は紙ベースだったが、今年はICTを活用してGoogleフォームで取りまとめて学校の負担軽減も図っている。当日参加できなかった中学校については、開催後に期間限定で動画配信を行う。

2学期には「オンライン職場体験 2022 ジョブカフェくしろ」を行う。対象となるのは、昨年度シンポジウムに参加した現中学2年生で、地元企業の動画視聴や、企業経営者とのオンライン対談を予定している。子供たちが、予測の難しい社会の変化に対応していける力や職業眼を育成するために、各種政策の充実を図っていきたい。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

昨年参加した中学1年生が2年生になり、各職場とのオンライン対談に臨むということで、去年参加した2年生に比べて一歩前進した姿を期待している。

中学1、2年生からキャリア教育を実践するのは良い取り組み。各学校でのキャリア教育の全体計画の中に位置づいたものになっていく必要があるため、各学校への働きかけをお願いしたい。

(大山教育指導参事)

昨年は途中から教育課程に入れたが、今年度はすでに入れてある。

【公開案件】報告事項

- (2) VR溶接機を活用した「ものづくり出前授業」の実施について

(早坂学校教育部長)

この出前事業は株式会社釧路製作所様から、ものづくりの大切さや地場産業への理解を深めるなど、キャリア教育の一層の充実を目的に、学校において何かものづくりに関する授業ができないかという提案により、教育委員会と産業推進室が連携して、市内の小中学校を対象にVR溶接機を活用した「ものづくり出前授業」を企画した。

5月9日に株式会社釧路製作所にて体験会が開催され、市長や教育長が参加した。5月16日の校長会では、羽笈社長から出前授業の概要についての説明があった。

これまでに、小学校3校、中学校3校からの申込みがあり、現在釧路製作所と日程調整を行っており、全校で実施できるよう対応したいとの連絡を受けている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし。

【公開案件】 報告事項

(3) 令和4年度「少年の主張」釧路市大会の開催について

(外崎青少年育成センター所長)

令和4年度「少年の主張」釧路市大会の開催について報告する。

「少年の主張」釧路市大会は、青少年が日常生活の中で、心からの思いや考え、感銘を受けたことなどを発表することで、社会の一員としての自覚と行動を促す契機とするとともに、市民が青少年の健全育成に対する理解と関心を深める一助とすることを目的に開催する。

対象は、市内各中学校に在学している生徒で、それぞれの中学校から一名の代表者を選出していただき、今回は15名の発表で行う。日時と会場については、6月5日土曜日の13時30分から開会し、場所はコーチャンフォー釧路文化ホールの小ホールで、審査員との対面方式で行う。発表者は一人5分程度の時間で発表を行い、その中から最優秀賞1名を選出し、釧路総合振興局地区大会の出場者として推薦する。

当日は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、学校関係者及び家族に限定した入場のみとなる。発表者の発表ごとのマイク消毒はもとより、会場内においてもマスク着用や消毒の実施、私語を慎むなど感染予防対策を徹底していく。また、オンライン配信も実施し来場が出来ない友人や生徒、親族、学校関係者にも視聴していただくよう、学校へ対して周知を進めていく。どうしても当日参加や視聴することができない方たちのために、後日、大会の様子を期間限定で動画配信して、子どもたちの発表を視聴できるよう進めていく。

本年度の「少年の主張」釧路市大会を契機に、中学生をはじめとする多くの子供たちが「社会の一員としての自覚と行動」を自分の言葉で表現できるようになるなど、主体的に将来の生き方や進路選択を実現できる資質・能力を身に付けることができるよう、次世代を担う子どもたちの青少年健全育成を努めていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし。

【公開案件】 報告事項

(4) 釧路市授業マイスターの活用について

(畠山指導主事)

「釧路市授業マイスター認定制度」を活用した授業力向上の取組について、報告する。

本市の小中学校及び義務教育学校に勤務する教員個々の授業力の向上を図るため、今年度、「釧路市授業マイスター認定制度」を活用した授業力向上の取組を進めていく。

1つ目、秋田県大館市との交流。大館市の優れた取組・実践を学ぶため、7月23日土曜日に高橋教育長による特別講演会を実施する。また、授業マイスター6名による大館市の学校視察を10～11月に予定している。さらに、研究センターの研修講座「校内研修の充実」において、オンラインで大館市の小中学校の取組を紹介する予定である。

2つ目、学力向上推進委員会と授業マイスター交流会。昨年度末に、初代授業マイスターとなる7名を認定したところであり、それに伴い、学力向上推進委員会と授業マイスター交流会を行う。月1回程度の開催予定である授業マイスター交流会では、授業公開や授業交流サイトなど授業力向上の普及に資する取組について、協議交流を行う。今年度の学力向上推進委員会は、より釧路市全体で学力向上、授業改善について共通理解を図ることができるよう組織を拡充し、年3回の実施を予定している。なお、授業マイスターには、今年度2回の授業公開や授業動画の提供等をお願いしている。

3つ目、初任段階教員の授業力向上事業。ここ数年、釧路市内の小中学校、および義務教育学校には、毎年40名ほどの初任の教員が配属になっており、初任段階教員の授業力向上に向けた取組を拡充させる必要がある。

今年度、年次により研修内容を変えながら市独自の取組を実施し、授業づくりや学習集団づくりについて、教員個々が、日々の実践を改善・向上させていく機運を釧路市全体で高めていきたい。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

1点目、6名の授業マイスターはこのような活動をすることについて前向きな意識であるのか。

2点目、授業マイスターの授業を見る機会を調整してほしい。

(畠山指導主事)

1点目、前向きである。2点目、今後調整していく。

(種村委員)

授業マイスターは更新されていくものなのか。それとも年度によって追加していくものなのか。

(富田総括指導主事)

一度、授業マイスターになれば、その後もマイスターである。校長先生からの推薦や授業参観を通じて、候補者を探して少しずつ増やしていく予定で、理想は教員全員がマイスターになることだが、今の目的は良い授業ができる人を増やすこと。

(岡部教育長)

年を重ねるごとに授業マイスターは管理職になっていき、授業する立場から離れるが、元授業マイスターという人たちも増えていけばよいと考えている。

(山口委員)

各校長先生には、授業マイスターに選ばれた先生が職場内で浮かないような環境づくり、授業マイスターを中心に授業力向上を目指すような輪ができるようなマネジメントを行ってほしい。

【公開案件】 報告事項

(5) ネーミングライツの募集結果について

(島スポーツ課長)

生涯学習部スポーツ課所管施設におけるネーミングライツ・スポンサーの募集結果について報告する。

このたび、「湿原の風アリーナ釧路」における、ネーミングライツ・スポンサーについて、4月16日から5月6日まで公募を実施した結果、株式会社ウインドヒル1社から応募があり、新たな愛称について、ウインドヒルクしろスーパーアリーナとの提案があった。

この応募を受け、5月23日に実施した選定委員会において、スポンサーから提案された施設の愛称等について審査した結果、同社を優先交渉権者とすることを決定したものである。

ネーミングライツ料については、スポンサーより提案のとおり、税別で月額25万円、1年目は年額225万円(9か月×25万)、2年目と3年目は年額300万円となっている。また、契約期間については、令和4年7月1日から令和7年3月31日までの2年9か月となっている。

今後とも広告主に満足いただけるような各種大会の誘致に努めるとともに、広告料を有益に活用した施設の管理に努めていく。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

陸上競技場に関して具体的な見通しはあるのか。

(島スポーツ課長)

陸上競技場に関しての具体的な見通しはない。現在はスポンサーをしたいという会社の提案があれば、それから公募をかける方式をとっている。総合政策部の広告事業研究会で、提案後に動き出す今までの方式に加え、一定期間を設けて特定の施設に対して募集をかける方

式も検討している。

【公開案件】 報告事項

(6) QRコードの活用による市有施設入館記録について

(島スポーツ課長)

QRコードの活用による市有施設入館記録について報告する。

新型コロナウイルス感染症への対応として、これまでスポーツ施設においては他の市有施設と同様に、施設利用者の中から感染者が発生した場合に同日同時刻に当該施設を利用しての方が濃厚接触者となる可能性があることから、その追跡のため、氏名や連絡先の名簿記載をお願いしている。これは、利用の都度記載が必要となり、利用者に手間をかけることが課題であったこと、紙媒体へ記載をすること自体、感染防止の観点から好ましくないということから、QRコードの活用により非接触での利用者情報を取得し、接触機会の低減を目指すものである。

このシステムを利用して施設へ入館する際の流れは、これから紹介する動画のとおりとなる。(動画再生)

本システムの導入費用は、令和3年度補正予算分の国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金で令和4年度当初予算に計上されており、5月19日に契約し、5月30日からの運用開始を予定している。

導入する施設については、湿原の風アリーナ釧路、鶴ヶ岱武道館、市民陸上競技場、鳥取温水プール、柳町アイスホッケー場、釧路アイスアリーナ、春採アイスアリーナの7施設で、このシステムで記録するものは氏名・電話番号・メールアドレスの3情報であり、いずれかの施設で一度QRコードを作成しスマートフォンなどに記録しておけば、他の施設で再度QRコードを作らなくても共通で使用することが可能となっている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

このシステムは生涯学習部スポーツ課所管の施設で利用できるとの説明であったが、釧路市全体の公共施設で同様のQRコードを利用できるようになれば、利用者にとってさらに便利になると思う。市長部局との連携は不可能なのか。

(島スポーツ課長)

スポーツ施設入館記録システムとして提案したが、総合政策部の調整で市有施設入館記録システムとして、スポーツ施設以外の施設でも利用できるよう進めている。先行して、ちびっ子マンデーの入館者記録やチューリップフェアの入場者記録等で活用している。

(山口委員)

市の直営施設のほかに、わっとの様な市の関連施設などにも広がれば、より便利になると

思う。

(岡部教育長)

スポーツ施設だけではなくどこに行ってもこれが使えるようになっていくべきであり、今後そのように議論が進んでいくと思う。また、スマートフォンを持ってない人には、どう対応するのか。

(島スポーツ課長)

パソコン等で利用者に代わって名前、電話番号、メールアドレスを入力し、紙でQRコードを発行し、渡そうと考えている。

(岡部教育長)

これまでの様な紙への記載での入場はできなくなるということか。

(島スポーツ課長)

不可能ではないが非接触を目指しているため、発行後は紙でQRコードを持参してもらうように促していきたい。

(小出委員)

スポーツ大会等に大人数で入場する場合、QRコードを登録するために長蛇の列ができると思うが、事前に雑誌等で周知して登録できるようにしておくことなどは考えているのか。

(島スポーツ課長)

検討したい。

(松尾委員)

コロナ感染症予防とのことであるが、登録した情報はどのくらいの期間で削除されるのか。

(工藤生涯学習部長)

現在使用している用紙も2週間以上保存しておく必要がないため、2週間で破棄している。今回のシステムも2週間程度で消える運用とする。

【公開案件】 報告事項

(7) 「夕日ラウンジ」の開設について

(松本博物館長)

「夕日ラウンジ」の開設について、報告する。

市立博物館では、当館4階の展望ラウンジを春採湖の自然や歴史をはじめ、釧路の夕日の情報発信の場としてリニューアルし、新たなラウンジとして活用していくこととした。

当館には、最も身近な自然である「春採湖」についての常設展示がなく、また展望ラウンジからは春採湖、そして太平洋へと沈んでいく夕日を一望できることから、愛称を「夕日ラウンジ」とした。

ラウンジには、創立50周年を迎えた「釧路市立博物館友の会」様からご寄贈いただいた春採湖の歴史や自然の魅力を紹介するパネル(A1判6枚)や、春採湖畔の野生動物や野鳥、草花を紹介する映像を流すモニター1台を設置し、春採湖の魅力を、広く紹介するスペース

となっている。

当館としては、今後においても展示内容のグレードアップに努めていくほか、秋口までには、定点カメラを設置し、三大夕日と称される「釧路の夕日」のライブ配信を開始することとしている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

このラウンジに入るためには、入館料はかかるのか。

(松本博物館長)

入館料500円かかる。ライブ配信に関しては無料で見ることができる。

【公開案件】 報告事項

(8) 鳥インフルエンザ発生に係る丹頂鶴自然公園の対応の経過等について

(鈴木動物園長)

鳥インフルエンザ発生に係る丹頂鶴自然公園の対応の経過について報告する。

先月4月20日に丹頂鶴自然公園で回収された死亡野鳥ハシブトガラス1羽を、釧路市動物園で簡易検査をしたところ、A型鳥インフルエンザの陽性反応が確認された。その後、鳥取大学で実施した遺伝子検査で4月28日に高病原性鳥インフルエンザウイルスH5亜型が確認された。

それに伴い、飼育動物をはじめ入園者や周辺施設の養鶏場への影響など、防疫上の観点から、丹頂鶴自然公園を4月22日から5月18日まで休園としていた。丹頂鶴自然公園は5月19日より再開しているが、感染状況を日々注視しながら対策を継続するとともに、動物園、阿寒国際ツルセンターにおいても、衛生管理の自己点検や、消毒の徹底、防鳥ネットを張るなど、防疫対策の強化に努めていく。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(岡部教育長)

他地域も含めて、現在の鳥インフルエンザの状況はどうなっているのか。

(鈴木動物園長)

発生状況からみると、だいぶ終息してきている。市内で2、3週間前に1件出たという報告は出ているが、重点区域は29日に解除になるという話になっているため終息に向かっている。季節的なものでもあるため、全国的にも収まってきている。

【公開案件】 報告事項

(9) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

まず、「信頼」の4月号について、管理職人事にかかわって市教委の考え方を伝えている。市内のどこの学校も学校経営は難しいので、リーダーシップを発揮してほしい。また、毎日、授業を見て指導すべきことを指導してほしい。という2点についてお願いしている。

釧路市授業マイスターの紹介と授業交流サイトの活用について、新任の校長先生等の管理職が授業を見て、釧路市が求めている授業レベルを理解し、教員への指導をするようお願いした。これにかかわって「授業改善に係る通知」を発出し、すべての教員に配付するようお願いしている。他に「市教委独自の学校訪問について」「学級閉鎖に係る授業時数の確保について」「小・中ジョイントプロジェクト」について再度お願いをしている。市教委が示している内容は最低限の内容であるため、各校区で工夫するようお願いしている。

今年度から新たに城山小学校の校舎に移転した「ふれあい教室」と「青空学級」の指導者が変わり、成績等の評価について説明した。また、「ふれあい教室」ではオンラインによる面談を計画しており、実施要綱の配付とともに説明した。指導員が仲介して、希望する子供たちと在籍校をオンラインでつなぎ、子供たちに所属感と自己肯定感を高める取組である。

次に「信頼」の5月号について、中学校の修学旅行が始まり、感染者が多い時期であったため、緊急時の対応についてお願いした。修学旅行の対応については4月末から中学校長会と協議を重ね、5月11日に中学校長会でオンライン会議を開いて、最終確認を行った。現在も中学校の修学旅行は続いており、本日の段階で6校が終了している。旅行中に感染者が発生した学校は今のところないが、具合の悪い生徒が出たときの対応をしっかりしてほしいと頼んでいる。

次に、学校訪問が始まるため、その目的に応じた準備をお願いしている。準備とは、当日の資料、タブレット端末の使用も含めた公開する授業内容、事前の教職員への指導などが含まれている。

釧路市授業マイスター候補者の推薦については年2回実施するため、学校訪問の中で候補者となりそうな先生を見つけ、校長先生と相談しながら発掘していきたい。

「木曜会」について、教育局で管理職候補者名簿というものを作っているが、市教委としては木曜会に参加する先生方を管理職候補者と捉えている。各校長先生方には対象の年齢になった先生方に声をかけていただき管理職を育てていきたいという話をした。木曜会を公に管理職を目指す先生方の集まりとして動きたいと思っている。

教育局の研修事業の件について、今年度教育局でも同じような研修事業を実施するため、市のほうを優先するようお願いした。釧路製作所の出前授業の件、釧路市カケハシ青少年育成基金の廃止の件について説明した。最後に、中学校長会に市長ヒアリングで出された意見を示したが、この日は時間がなかったため、6月の中学校長会議で詳しく説明したいと伝えてある。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

小中ジョイントプロジェクトについて、6、7月にある従来の学教研の活動日の午後を使って行うと聞いたが、それ以外に市教委で時間を設定して開催する計画はないのか。

(大山教育指導参事)

市教委が授業日数を削って設定するのは年1回、7月の連携研修のみであり、各学校で工夫しながら連携協議会の回数は最低でも4回くらい行ってほしい。すでに各中学校区でそれぞれの事務職や、各部で集まっている例もある。

(山口委員)

従来の学教研の活動日の一つを当てて使っているということになるが、それ以外の学教研の活動日は年何回残っているのか。

(大山教育指導参事)

年3、4日、今まで通り残っている。

(山口委員)

授業をカットして研修日を設定しているということで、先生にとって有効な研修になるように工夫していただきたい。

(小出委員)

ふれあい教室のオンライン面談について、今年度から企画しているということだが、希望を出した子供と在籍校とオンラインでつないで、授業に参加できるということなのか。

(大山教育指導参事)

指導員からの意見で行われる事となった。想定しているのは担任の先生と生徒がオンラインでコミュニケーションをとることで、進んでいけばオンラインで授業参加ということもある。まずは担任の先生と気楽に話せる環境を作ることが必要という話になっている。

(山口委員)

子供の状況やどのようなコンディションなのかを理解し、タイムリーな段階で担任が子供に関わることが理想であるため、実現するには原籍校がふれあいに通う子供たちと積極的に関わろうとする基本姿勢を持つこと、担任を中心に先生方が子供のコンディションを知ろうとする姿勢を持つことが重要である。それに併せた、ふれあいの先生と担任の先生の連携がうまくいかなければ、タイムリーに子供にアプローチできないため、双方とも同じ姿勢で子供に向き合うように働きかけてほしい。

(大山教育指導参事)

新たに指導員となった退職校長も各学校の対応に物足りなさを感じていたため、代わって私が校長会で話をした。校長先生同士、よく理解しあえる話だと思うので、現職の校長先生と退職した校長先生で交流していただくように呼びかけている。私たちもそれに関わりながら進捗状況を見ていこうと考えている。

(山口委員)

信頼に書かれている各学校の校長先生に対するメッセージについて、課題や課題解決の手立てなどが的確に書かれているが、課題に対する戦略が立てられず消化不良を起こしている校長先生もいると思う。そのような校長先生を、校長会や教育委員会での的確に理解、把握して、各校長先生の状態に合わせた寄り添いが必要になると思う。

(大山教育指導参事)

小中ジョイントプロジェクトに関して昨年3学期に話した際、ある校長先生から「無理せず、できるところから」と言われたが、それでは先に進めないと感じたため最低限のラインを設けた。校長先生がやりたいことに教職員が反対しているというケースがあり、校長先生のストレスになっているように感じるが、校長先生には主導的に進めることも視野に入れて活動してもらおう。中学校校長会の会長、事務局長と相談しながら進めていきたいと思う。